



葉 山 町

令和8年8月26日

記 者 発 表

葉山町役場内の食堂が生まれ変わりました

— はやまエシカルアクション賛同事業者等による新たな拠点「Hayama FOREST Cafe」—

令和8年9月1日（火）、葉山町役場1階に「Hayama FOREST Cafe（ハヤマフォレストカフェ）」がグランドオープンします（現在はプレオープン中）。このカフェは職員だけでなく、来庁者も利用可能な公共空間として運営されます。

運営を担う「~~株~~森のサラダ」（代表：藤本嶺氏）は、町が実施する「はやまエシカルアクション」の賛同事業者であり、このカフェは町内の森林資源（危険木等）の再活用、地域事業者との協働、公共空間の再価値化を一体的に実現する、はやまエシカルアクションの理念を体現する拠点となっています。



■ 取組みの特徴

1. 町内の“危険木”を公共空間の家具に再生する、町内初の事例。

町内の危険木を「はやまエシカルアクション」の賛同事業者である HFC（一般社団法人葉山の森保全センター）が伐採し、同じく賛同事業者である藤本工務店が製材・乾燥。その樹木をカフェ内のテーブル・椅子・内装材として再活用しています。地域の森林資源を廃棄せず循環させるこの取組みは、町内公共施設としては初めての取組みです。

また施設内のテーブルには、町内で伐採された危険木の種類が分かるよう、木材ごとに小さなあしらいがされています。これにより、葉山の森には多様な樹種が存在すること、それぞれの木が地域の暮らしを支えていることを、来庁者が自然に知ることができる仕組みとなっています。単なる家具ではなく、「葉山の森の豊かさを伝える公共教材」としての役割も担っており、地域資源の循環を体感できる空間づくりの一部となっています。



2. 町内の「はやまエシカルアクション」賛同事業者等が日替わりで登場する「地域循環型」食堂

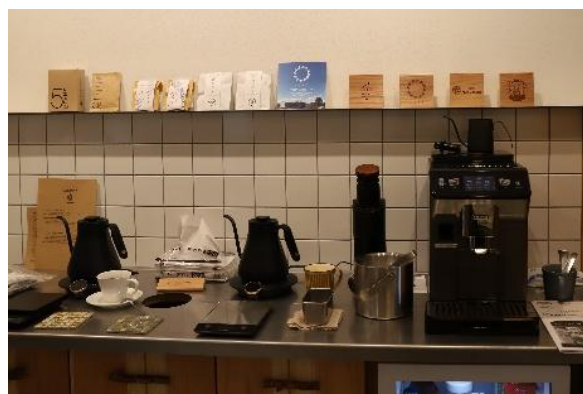
カフェ内では、町内の人気店が日替わりで弁当を提供します。参加店舗の多くは「はやまエシカルアクション」賛同事業者であり、役場を起点に地域の魅力が循環する仕組みを形成しています。

日替わり弁当提供事業者) 葉山マルシェ、モトパン、風早橋ガーデングリルカフェ (賛同事業者)
アジアン食堂 LOM、3pm・さんじ (賛同事業者)、葉山 日影茶屋 (賛同事業者)

3. 町内事業者によるコーヒー・ハーブティー等の提供

カフェ内では、町内のコーヒーショップで賛同事業者のカフェテーク葉山と THE FIVE★BEANS が焙煎した豆を使用したコーヒーに加え、同じく賛同事業者であるはっぷ (HAPP) によるハーブティーや、季節の素材を活かした養生茶をご提供しています。

これらの飲み物は営業時間中いつでも楽しめます。



4. 公共空間としての役場の新しい価値創出

このカフェではセルフレジを導入し、コーヒー1杯から気軽に利用できる仕組みを備えており、職員だけでなく、来庁者も利用可能な公共空間として、役場の滞在価値向上と地域資源循環の発信拠点となっており、新たな価値を創出しています。

※混雑緩和の観点から、職員の昼休みの時間帯(12時～13時)は、来庁者の皆様のご利用は控えめにさせていただきようをお願いしています。

※セルフレジは準備でき次第の稼働となります。(それまではカウンターで現金またはPayPay支払い)

■ はやまエシカルアクションとは

SDGs 達成のために推進している「はやまクリーンプログラム」の一環で、令和4年6月1日より町内のエシカルアクション(自然環境・人や社会・地域を思いやった行動)を、産官民連携で推進しているプロジェクト。町内の事業者や団体、町民、訪れる人など全ての人が、葉山町と地球の将来のために本気で行動している「環境の町」として、世界に発信していくことを目指しています。

■ 運営者コメント(森のサラダ代表・藤本嶺氏)

「葉山の森林が、たっぷり味わえる場です。森・海といった地域の資源・人・食・地域がつながり、循環する拠点として、また葉山の魅力をより多くの人に伝える場として、新しい形をつくっていきたいです。」

■ 問合せ

- ・はやまエシカルアクションについて 政策課秘書広報係 河野(こうの) 内線 333
- ・食堂の運営について 総務課職員係 三木(みき) 内線 311